

第18代宮島観光親善大使

新たな宮島の観光大使 厳島神社でお披露目

宮島の観光宣伝や行催事、式典などでP R役を務める、第18代宮島観光親善大使が決定しました。新しく18代目に着任したのは、越智美月さん、森梨香子さん、上野靖子さんの3人です。

3月18日に厳島神社で行われた交代式では、平清盛生誕900年記念イベントなどを経験した17代目の大使たちからたすきを引き継ぎました。3人は「日本三景安芸の宮島の顔として頑張ります」と誓いの言葉を宣誓しました。



写真左から、越智さん、森さん、上野さん。3月に行われた清盛まつりから2年間活動します

ASTCアジアトライアスロン選手権

2020年アジア選手権 廿日市市で開催決定

2020年春、A S T Cアジアトライアスロン選手権を本市で開催することが決定し、3月28日に第1回実行委員会が開かれました。

実行委員長の眞野市長は「挑戦・勇気・感動をキーワードに、地域活性化やスポーツの推進、国際交流、観光振興、パラスポーツの普及を目指す。開催までの1年間、市全体で機運の醸成を図っていきたい」と意気込みを述べました。今後、試泳会などを行い、開催の準備を進めていきます。



実行委員会では、市役所周辺を中心としたコースやスケジュールなどを協議しました

生け花教室

色鮮やかな花々 園児たちが笑顔で生ける

3月22日、津田保育園と友和保育園で、卒園式で保護者などのお世話になった人に贈る花を生ける、生け花教室が開催されました。卒園する年長園児たちは、講師から「手を切らずに花を切るコツ」などを聞きながら、市内で生産された華やかなバラやコチョウランなどを生けました。

講師を務めたのは、(有)橋本園芸場の橋本和博さんと(有)田原農園の今田徳之さん。今田さんは「小さい頃から花と触れ合うことで花を好きになってほしい」と話しました。



津田保育園では、すみれ組の11人が贈る相手に思い浮かべながら花を生けました

平成30年度はつかいちさくら賞(後期)

市の生涯学習の 普及・推進に貢献

「はつかいちさくら賞」は、市の生涯学習の普及・推進に貢献した個人や団体を表彰するもので、平成30年度後期は、第73回国民体育大会アーチェリー少年男子団体の部で優勝した西川柊也さんが選ばれました。

4月7日に行われた桜まつりでの表彰式で、西川さんは「優勝はみんなで力を合わせて頑張った結果。メンバーと喜びを分かち合いたいです。高校卒業後はアーチェリーから少し離れますが、いつかまた全国を目指したいです」と話しました。



受賞した西川さん。3月に佐伯高等学校を卒業しました

新ごみ処理施設落成式

世界最高水準の技術を導入 環境保全性能の向上

はつかいちエネルギークリーンセンターの完成を祝い、3月28日、落成式が行われました。

これまで市内3施設で行っていたごみ処理機能を集約。安定した焼却と金属資源の回収が可能な設備を導入し、ごみ焼却の熱エネルギーを活用して高効率発電を行うなど、環境に配慮した最新技術を導入しました。眞野市長は「本市がめざす環境創造都市にまた一歩近づいたと思う。今後は地域に親しまれる施設となるよう、努めていきたい」と話しました。



同センター内でテープカットを行い、施設の新たな出発を祝いました

第15代はつかいち観光親善大使

はつかいちの新観光大使 桜まつりでデビュー

4月7日に行われた桜まつりでの交代式で、前任からたすきを引き継ぎ、第15代はつかいち観光親善大使に吉岡里奈さんと植川真衣さんが就任しました。

吉岡さんは「皆さんに愛着と誇りを持ってもらえるような大使になりたい」、植川さんは「市の顔として知識を深め、新たな魅力を発信していきたい」と話しました。

任期の3年間、市内外のイベントなどで、観光情報や市の魅力をPRしていきます。



写真左から、新観光親善大使に就任した吉岡さん、植川さん

なるほど 健康講座

問い合わせ 健康推進課 ☎@1610

高齢者に必要な

お口のお手入れ

「お口のお手入れ」と聞いて、すぐに思い浮かぶのは、歯磨きではないでしょうか。お口の機能（食べること、しゃべること、息をすることなど）をしっかりと守っていくためには、歯の健康が非常に大切です。

歯の病気のほとんどは、虫歯と歯周病であり、そのどちらの病気も「歯こう（磨き残し）」が主な原因です。できるだけ磨き残しを少なくすることは、高齢者だけでなく、どの年齢の人にとっても重要です。しかし、年齢によって重点



いわい歯科クリニック
(佐伯歯科医師会 廿日市支部)
岩井 進悟 先生

的に取り組むべきポイントは違います。今回は、特に高齢者に注意してほしいことをお伝えします。

高齢者のお口の特徴は、歯茎が下がって歯の根が露出してくることです。それにより、歯の根元部分では、歯と歯の間の隙間が大きくなり、歯ブラシでは頑張っても60%の汚れしか取ることができなくなってきます。歯ブラシで取りきれない、残りの半分近くの汚れを取り除くためには、歯間ブラシが効果的です。歯ブラシをして、歯間ブラシも使用すると考えると、時間が掛かって大変そうですが、1日に3回もする必要はありません。1日に1回、全体をきれいに清掃すれば、お口の健康を保つことができます。

高齢になり、歯の根が露出してくることで虫歯もできやすくなります。虫歯は子どもにしやすいイメージがあると思います。確かに、大人になるにつれ虫歯は減ります。しかし、歯の根が露出すると、再び虫歯になる危険性が高まるため、甘いものの摂り方やフッ素の利用などをよく考える必要があります。高齢になると、虫歯を防ぐ働きがある唾液も減少する傾向があるため、ゼビフッ素入り歯磨剤を使ったり、歯科医院でクリーニングやフッ素塗布を受けたりして、虫歯を予防してください。

みんなでいっしょに コミュニケーション！ No.1

問い合わせ 障害福祉課 ☎9152

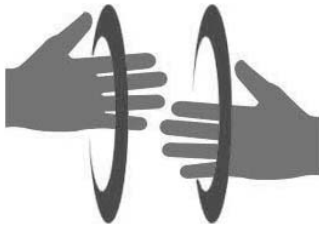
平成30年7月に「手話言語の普及及び多様なコミュニケーション手段の利用促進によるやさしいまちづくり条例」を施行しました。これにより、障がいのある人もない人も、笑顔でコミュニケーションでき、手話などをもっと身近に感じていただくため、手話や障がいの特性を紹介していきます。

障がいの特性―聴覚障がい―

耳が聞こえなかったり、聞こえにくかったりする障がいです。生まれたときから聞こえない場合と、病気や事故で途中から聞こえなくなる場合があります。聞こえないことは外見では分からないため、気づいてもらえず困ることがあります。

◎手話や筆談（紙に書く、スマートフォンに入力）などでコミュニケーションを取ります。口の動きや表情が分かるよう、ゆっくり、はっきり、身振りも使って、正面から話してください。

手話マーク

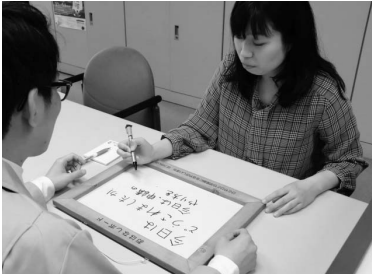


手話で対応をお願いしたいときに表示したり、手話でコミュニケーションができる人がいることを表したりするマーク。

耳マーク



聴覚に障がいがあることを表し、聞こえない人や聞こえない人に筆談ボードがあることを知らせるマーク。



市役所の各階に、筆談ボード（ホワイトボード）を設置しています。